

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成30年4月17日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立第三小学校 第6学年，全児童

実施児童数（ 22 人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び算数及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「児童アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答率は、全国を7.7ポイント下回る。分布状況は、全国のものによく似て全体に広がるが、中位層から上位層が多い。

平均正答率（本校 63／泉佐野市 67／大阪府 68／全国 70.7）

「B区分問題」

- ・平均正答率は、全国を7.7ポイント下回る。分布状況は、中位層が多く、下位層にも広がっている。

平均正答率（本校 47／泉佐野市 51／大阪府 52／全国 54.7）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語A	特徴がみられた設問
正答率が全国平均より高かったもの 【読むこと】 ○登場人物の心情について、情景描写を基に捉える 4『くらやみの物語』を読んで心の残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文が心の残った理由として適切なものを選択する（77.3/74.0） 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う 6（心を打たれる）（90.9/90.4） ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う 8オ（せつ極的）（54.5/51.4） 正答率が全国平均より低かったもの 【書くこと】 ○自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える	2（物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する）（59.1/73.8） 【読むこと】 ○目的に応じて必要な情報を捉える 3「オムレツを作ったあとの感想」を踏まえ、「オムレツのページ」をどのように読めばよいか、適切なものを選択する（63.6/73.9） 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く 5「春休みの出来事の一部」の中で、…部と一部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す（18.2/35.5） ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う 8エ（かん理）（50.0/65.0）

国語B	特徴がみられた設問
正答率が全国平均より高かったもの 【話すこと・聞くこと】 ○話し合いの参加者として、質問の意図を捉える 1「話し合いの様子の一部」における木村さんの発言の意図として、適切なものを選択する（86.4/82.5） 【書くこと】 ○目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える 2「かみかみあえ」についての（おすすめる文章）の最初の部分に□□□□のように書いた理由として適切なものを選択する（63.6/57.6）	正答率が全国平均より低かったもの 【話すこと・聞くこと】【書くこと】 ○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる 1三これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、□□□□を書く（18.2/33.8） 【読むこと】 ○目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む 3一山下さんは、どのようなことが知りたくて（自伝「旅人」の一部）を読んだのか、その説明として適切なものを選択する（27.3/49.4） 【書くこと】【読むこと】 ○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む 3二（伝記「湯川秀樹」の一部）を読んで、（ノートの一部）の最も心がひかれた一文とその理由の文章の□□□□に入る内容を書く（22.7/52.3）

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	63.7	67.6		3.9
家で、学校の宿題をしていますか	95.4	97.1		1.7
家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	45.5	62.6	○	17.1
家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか	40.9	69.9	○	20.0
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	(2h 以上) 22.7	7.8	○	14.9
	(全くしない) 27.3	18.7	◇	8.6
放課後に何をして過ごすことが多いですか	113.6	96.3	○	17.3
週末に何をして過ごすことが多いですか	72.8	74.2		1.4
新聞を読んでいますか	27.3	19.9	◇	7.4
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）	90.9	86.2		4.7

○学習状況調査によると、「宿題を家でする」習慣については全国平均とほぼ変わらない高い割合の結果で、一定定着していると判断できる。しかし、内容等について「自分で計画を立てている」と肯定的に回答したのは宿題のそれを下回り、「授業の予習・復習」に至っては全国平均をさらに下回る。さらに、「家で自学自習に教科書を使いますか」の質問には、全国平均に20ポイントの差が生じて下回った。

○「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか」の質問に「2時間以上」との回答が22.7ポイントと全国より14.9ポイント高く、同時に「全くしない」という回答も全国平均に8.6ポイントの差をつけ、上回った。読書は好きな児童とそうでない児童との個人差が大きく、さらに二極化もしているようである。

○「放課後に何をして過ごすことが多いですか」の質問に「家で勉強や読書」と「学習塾など学校や家以外の場所で勉強している」の回答が合わせて113.6ポイントと、全国平均を17.3ポイント上回ったが、「週末に何をして過ごすことが多いですか」には、同じ回答は72.8ポイントと全国平均より1.4ポイント下回った。

これらから、与えられた課題（例えば宿題）に対して、きちんとする習慣が身についている児童の割合は高いと思われる。一方、自分で課題を見つけ計画的に勉強にとりくむことや、学校での授業について予習・復習をしたり、教科書をつかって自学自習したりする児童は少ないことがわかる。読書にかかる時間や放課後、または週末に勉強している時間については、それらに時間を使っている割合と、家族や友だちと過ごすことに時間を使っているとする割合の双方ともに高いが、「家でテレビやビデオ、DVDを見たりゲームをしたり、インターネットをしたりしている」と回答した割合の方が全体を通して全国平均も、ともに高かった。個人による差も大きいと推測できる。「新聞を読んでいますか」に「ほぼ毎日読む」27.3ポイント、「ほとんど、または全く読まない」が倍以上の63.6ポイント。「テレビやインターネットのニュースを見ますか」には「よく見る」が90.9ポイント、「ほとんど、または全く見ない」は4.5ポイントであった。現代の世相を反映しているといえるが、「新聞」から遠ざかっている現実がうかがえた。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答率は、全国を1.5ポイント上回る。分布状況は、中位層と上位層に分散。下位層はいない。全問正解者数の割合が1割を超す。

平均正答率（本校 65／泉佐野市 62／大阪府 63／全国 63.5）

「B区分問題」

- ・平均正答率は、全国を4.5ポイント下回る。分布状況は、全国のものとはほぼ同様。

平均正答率（本校 47／泉佐野市 48／大阪府 51／全国 51.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数A	特 徴 が み ら れ た 設 問
正答率が全国平均より高かったもの 【数と計算】 ○1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解している 1(3) 針金1mの重さを求める式を選ぶ (72.7/65.3) 【量と測定】 ○単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している 4(2) ウとエの2つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ (63.6/50.1) 【図形】 ○円周率の意味について理解している 7(1) 円周率を求める式として正しいものを選ぶ (59.1/41.6)	正答率が全国平均より低かったもの 【数と計算】 ○1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる 1(2) 針金0.4mと0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるか選ぶ (54.5/66.7) 【図形】 ○示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現することができる 6空間の中にあるものの位置を正しく書く (59.1/73.5) 【図形】【数量関係】 ○直径の長さと同量の長さの関係について理解している 7(2) 円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ (45.5/55.6)

算数B	特 徴 が み ら れ た 設 問
正答率が全国平均より高かったもの 【数と計算】 ○示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる 2(1) 全体で使える時間の中で、「ルールの説明」に使える時間は何かを書く (86.4/70.5) ○折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができる 5(2) 4色を順に繰り返してつなげ、輪かざり1本を作ったときの、30個目の折り紙の輪の色を選ぶ (81.8/66.5)	正答率が全国平均より低かったもの 【数量関係】 ○メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる 3(1) メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く (0.0/20.7) ○示された情報を解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することができる 4(1) 「32, 40」の2つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す (50.0/62.7) 【数と計算】 ○示された情報を解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できる 4(2) 横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く (31.8/59.5)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか	54.5	64.0	◇	9.5
算数の勉強は大切だと思いますか	68.2	92.1	○	23.9
算数の授業の内容はよく分かりますか	59.1	83.4	○	24.3
算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思いますか	63.6	74.3	○	10.7
算数の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	63.7	78.4	○	14.7
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	72.7	90.3	○	17.6
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	72.7	78.5	◇	5.8
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	77.3	80.1		2.8
算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていますか	81.8	85.8		4.0
今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか	全ての問題で努力した 50.0	全ての問題で努力した 70.6	○	20.6
	諦めた 50.0	諦めた 26.9	○	23.1

- 学力状況調査によると、A 問題と B 問題に大きく差が出た。主として知識・技能に関する内容について（A 問題）は全国平均をやや上回る割合で定着しているといえるが、十分であるかどうかは疑問である。さらにそれらを活用する力などに関する内容（B 問題）については、全国平均を下回った。問題を深く読み込み、理解し、状況を具体的にイメージするなどして、基礎・基本を基に適切に解答するといった活用の力を問われていると感じる。
- 学習状況調査によると、算数の勉強に関して「将来、役に立つと思う」、「解き方や考え方がわかるようにノートに書いている」「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」「もっと簡単に解く方法がないか考える」と、この勉強が必要であることを理解していたり、もっとよくわかるようになりたいと願っていたりすると捉えられる肯定的な回答のポイントはやや高いが、「算数の勉強は好きですか」への肯定的な回答ポイントは低い。「算数の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的な回答ポイントがやや低いことから、学校として児童の興味や知的好奇心を高めるような授業の工夫が更に必要とも考えられる。
- 「今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」の質問に、「全ての問題で努力した」の回答が全国平均を下回り、「諦めた」の回答が全国平均を上回った。この結果から、難しい問題に出会った時に「がんばろう」とは思うが、粘り強く最後まで力を尽くす意欲には欠けるものと読みとれる。
- 「あと少し」や「もう一度」と自信を奮い立たせるための力をつけることで、文字通り「あと少し」結果がついてくれば、自信につながり、自己肯定感にもつながる。それをねらい、授業の工夫や改善をしていく必要がある。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率は、3.3 ポイント全国平均より下回る。分布状況はほぼ均等で、中位層と上位層にわかれた。

平均正答率（本校 57／泉佐野市 57／大阪府 57／全国 60.3）

- ・主として「知識」に関する問題では、8 ポイント、主として「活用」に関する問題では、1.2 ポイント全国平均を下回る。

主として「知識」に関する問題（本校 70／泉佐野市 77／大阪府 75／全国 78.0）

主として「活用」に関する問題（本校 55／泉佐野市 53／大阪府 53／全国 56.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科「知識」	特 徴 が み ら れ た 設 問
正答率が全国平均より高かったもの *「知識」の枠組みに分類された問題は3問のみで、いずれもわずかに全国平均を下回った	正答率が全国平均より低かったもの 【B生命】 ○骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している 1(3) 腕を曲げることで骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く (72.7/79.4) 【B地球】 ○堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している 2(1) 流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ (72.7/83.6) 【A物質】 ○ろ過の適切な操作方法を身に付けている 4(1) ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気付き、適切に操作する方法を選ぶ (63.6/71.1)

理科「活用」	特 徴 が み ら れ た 設 問
正答率が全国平均より高かったもの 【B地球】 ○より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関連づけながら、分析して考察できる 2(4) 上流側の雲の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ (68.2/59.8) 【Aエネルギー】 ○乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる 3(1) 風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ (77.3/63.5) ○実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善できる 3(3) 回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ (68.2/59.4) 【Aエネルギー・B地球】 ○太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる 3(4) 目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ (50.0/41.9)	正答率が全国平均より低かったもの 【B地球】 ○土地の浸食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる 2(2) 流れる水の働きによる土地の浸食について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ (31.8/55.4) 【Aエネルギー】 ○電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる 3(2) 回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ (36.4/47.7) 【B地球】 ○実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる 4(4) 食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く (13.6/35.9) * 無解答 (40.9/8.9)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は好きですか	63.6	83.5	○	19.9
理科の勉強は大切だと思いますか	59.1	85.4	○	26.3
理科の授業の内容はよくわかりますか	68.2	89.4	○	21.2
自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか	90.9	87.0		3.9
理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	45.5	64.7	○	19.2
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	59.1	72.9	○	13.8
理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか	71.5	54.5	○	17.0
観察や実験を行うことは好きですか	72.7	89.8	○	17.1
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	54.5	75.2	○	20.7
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	50.0	81.8	○	31.8
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	54.5	68.1	○	13.6
今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	全ての問題で努力した 54.5	全ての問題で努力した 77.3	○	22.8
	諦めた 45.5	諦めた 20.3	○	25.2

- 学力状況調査によると、全体の傾向としては全国を3.3ポイント下回る。主として「活用」に関する問題については、全国平均とほぼ同じ結果であるが、1.2ポイント全国平均を下回り、主として「知識」に関する問題の方は全国平均より8ポイントの差があった。正答数分布グラフによると、中位層と上位層にほぼ均等にわかれており、個人による差もある。
- 学習後すぐには「知識」として記憶されていても時間の経過とともに、納得して記憶されたもののみが「活用」となって定着し、初めの細かな「知識」が印象の薄かったものの順に忘れられていくのだろうか。様々な場面での復習や反復の機会をあえて作るように心がけることや、既習の用語等をどんどん活用することも必要と考える。
- 「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか」について肯定的な回答の割合は高い。「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか」の回答についても、肯定的な回答の割合は全国平均よりも高かった。自然に触れる経験があり、学習の場面で他者へ自分の考えを説明したり発表したりはするが、自分の予想や仮説をもとに観察や実験の計画を立てたり、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えたりすることは、前向きでないことが読みとれる。
- 「理科の勉強は好きですか」の肯定的回答ポイントは、全国よりは低い、算数よりは高い。「観察や実験を行うことは好きですか」から、好きと回答している割合が高いことと比例していると考えられる。
- 算数同様、「解答を文章などで書く問題がありました。どのように解答しましたか」の質問に、「努力した」の回答が全国平均を下回り、「諦めた」の回答が全国平均を上回った。この結果からもやはり、粘り強く最後まで力を尽くす意欲には欠けるものと読みとれる。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	・家庭での生活習慣が、望ましい状態である割合が低い ・家で、学校の話をしている割合が全国平均より低いこと等、合わせて保護者にも啓発に努めたい ・地域について、考えてはいるが、ボランティアに関してはどのようにすればよいかかわからない可能性もある	○朝食を毎日食べていますか (86.3/94.5) ○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか (59.1/77.0) ○家の人と学校での出来事について話をしますか (63.6/80.5) ○今すんでいる地域の行事に参加していますか (54.5/62.7) ○地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか (59.1/49.9) ○地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか (22.7/36.1)
【家庭学習の様子】	・家で学校の勉強をフォローしている割合は全国の平均を下回る ・普段の平日に3h以上勉強すると答えた割合が全国の3倍近くで、逆に30分以上しないと答えた割合も全国の3倍以上であることから個人による差は大きい	○家で、学校の授業の予習・復習をしていますか (45.5/62.6) ○家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか (40.9/69.9) ○学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか 3時間以上 (36.4/12.5) 30分未満～全くしない (31.8/9.9)
【学校での学習の様子】 【自尊感情・規範意識】	・自尊感情が低い ・そのためか、先生からも認めてもらえていないと感じている ・いじめがいけないということは、概ね理解しているようだが、規範意識が低い割合は高いといえる ・人の役に立つ人間になりたいと思うが、夢や目標は持てていない割合が高い ・自信を持たせ、将来の夢や目標を描かせたい	○自分には、よいところがあると思いますか (50/84) ○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか (45.5/85.3) ○将来の夢や目標を持っていますか (77.2/85.1) ○学校のきまりを守っていますか (77.3/89.5) ○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか (95.5/96.8) ○人の役に立つ人間になりたいと思いますか (90.9/95.2)

本校の取組

◎これまでの取組

- ・朝学習(週1回×15分)
国語・算数に特化して既習の反復学習をプリントで行い、基礎基本の定着をねらう。朝のその他の日には英語活動、児童朝礼に当てている。(その他週3回×15分は学年により英語活動に当てる)
- ・放課後学習(まなびんぐ)
3年生(月曜日放課後)と5年生(木曜日放課後)を対象に補充学習を行う。まなびんぐサポーターが来校し、児童に学習支援を行っている。
- ・タブレット活用授業
本校児童に与えられているタブレット端末を授業の中で有効に使用し、学力向上に向けとりくんでいる。一人ひとりが調べたことや気づいたことをまとめてとりためておくことはもちろん、他者や全体に向けて発表するときの提示資料としても有効である。教職員がタブレット端末からデジタル教科書を大型テレビに提示して使用するなど、その授業にあわせた使い方の工夫をしている。
- ・宿題バッチリ習慣
宿題の内容、量について全校で系統立てたものを示し、家庭にも啓発、協力を仰ぐ。
- ・校内研究
国語科において「自分で考え解決する子どもの育成」をテーマに昨年度の～話す聞く活動を通して伝え合う力を育てる～から『書く力を伸ばし、話す聞く活動を通して伝え合う力を育てる』と、『書く』ことにこだわった。

◎これからの取組

〔国語について〕

- ・これまでも長く課題であった「伝える力(コミュニケーション力)」の更なる向上をねらい、今年度は「書く力」に着目した。様々な場面で児童には「書く」機会を設定し、「書く」ことに慣れ、親しみ、楽しめるよう、仕掛けたい。「話す」と「聞く」と「書く」は相互に連動していると捉え、バランスよく高める。校内研究では、昨年度までと同じ講師先生に助言をいただき、系統立った教員の授業力向上をねらう。

〔算数について〕

- ・記述式の問題と国語の「読むこと、書くこと」の課題は通じる。読解力を高め、何を問われているのかをイメージすることができ、自分の思いを説明する力を育成するため、ICT機器を有効な場面では積極的に使用し、読み取る力、イメージする力、説明する力の向上をめざす。
- ・児童が自ら前向きに自信を持ってとりくめるよう、見通しを持った授業を工夫し組み立てる。
- ・難しい問題に出会った時に「がんばろう」とは思うが、粘り強く最後まで力を尽くす意欲には欠けるものがあると読みとれることから、少しずつでも自力で解決して、やり遂げる達成感を覚え、前向きにチャレンジする姿勢を育てたい。
- ・学習状況調査によると、「算数は大切な勉強である」や「将来、役に立つと思う」、さらに「解き方や考え方がわかるようにノートに書いている」等、学習意欲があると読みとれるにも関わらず、「算数が好きか」の回答には肯定的なものが少ない。このことから、授業の工夫を十分考えなければならない。

〔理科について〕

- ・学習状況調査によると、「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか」について肯定的な回答の割合は高い。しかし、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てたり、観察や実験の結果からどのようなことが分かったのか考えたりすることは、前向きでないことが読みとれる。算数同様、授業の中で興味を持つように仕掛け、児童が自力で課題を見つけ、仮説を立て実験し考察することにやりがいを感じられるよう授業の工夫が必要である。

〔学習状況調査について〕

- ・自尊感情が低い。これは、規範意識や、自らの学習態度に大きく影響するものなので、早急に改善したい件である。認めてもらう体験、頼りにされる体験、やったらできたという体験を学校の学習の場面で設定したい。その一方で、家庭での居場所と同時に役割にも影響されるところは大きいと考え、保護者への一層の啓発が必要と考える。生活習慣の確立や家庭学習の習慣づけ等、子どもたちのためになることは、子どもを中心に学校と家庭、地域の協力体制をさらに強化し、一丸となって連携していきたい。